

今西中通

1908 - 1947

今西中通は、戦前の独立美術協会で活躍した画家ですが、結核のため昭和22(1947)年に39歳で早世しました。17年ほどの画業の中で、フォービズムからキュービズムへ移り、最後はセザンヌ風の写実に帰っていきました。今西の作品は、どのような表現様式で描かれても、そして片々たる素描にも、芸術に立ち向かう気概のようなものを感じます。

没後、長く忘れられていましたが、昭和36(1961)年に神奈川県立近代美術館で「忘れられた三人の画家 飯田操朗、今西中通、森有材展」が開催され、昭和42(1967)年に京都国立近代美術館で「異色の近代画家たち展」に取り上げられるなど、徐々に注目を浴びるようになりました。

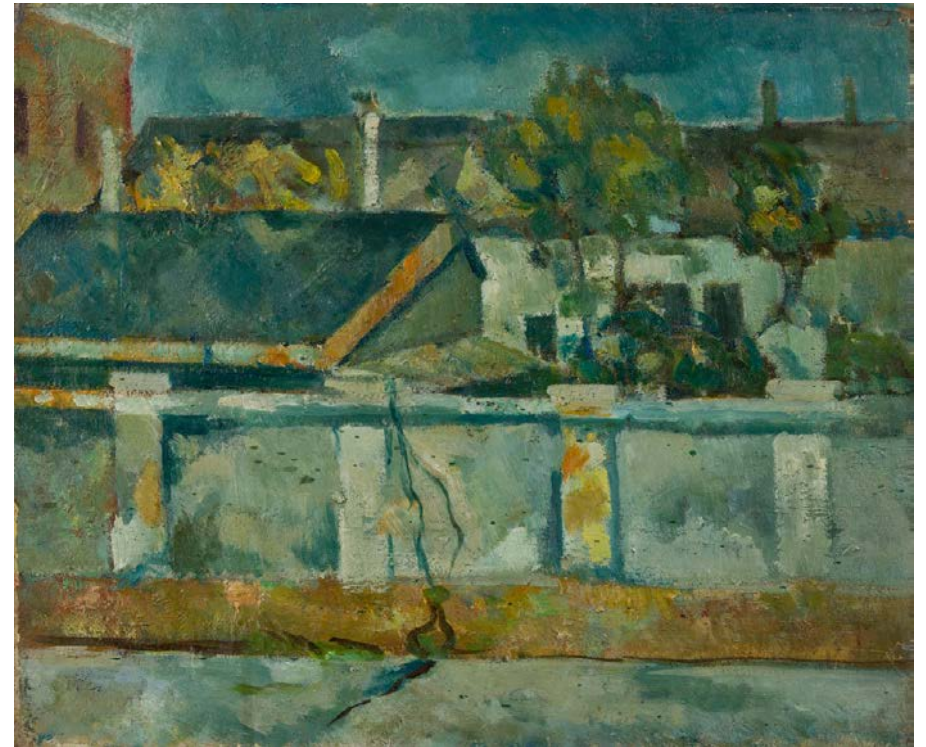
梅野隆は、昭和39(1964)年頃に東京本郷の骨董店で一枚の今西作品と出合ったのが契機となり、水彩素描を合わせて百数十点を収集しています。



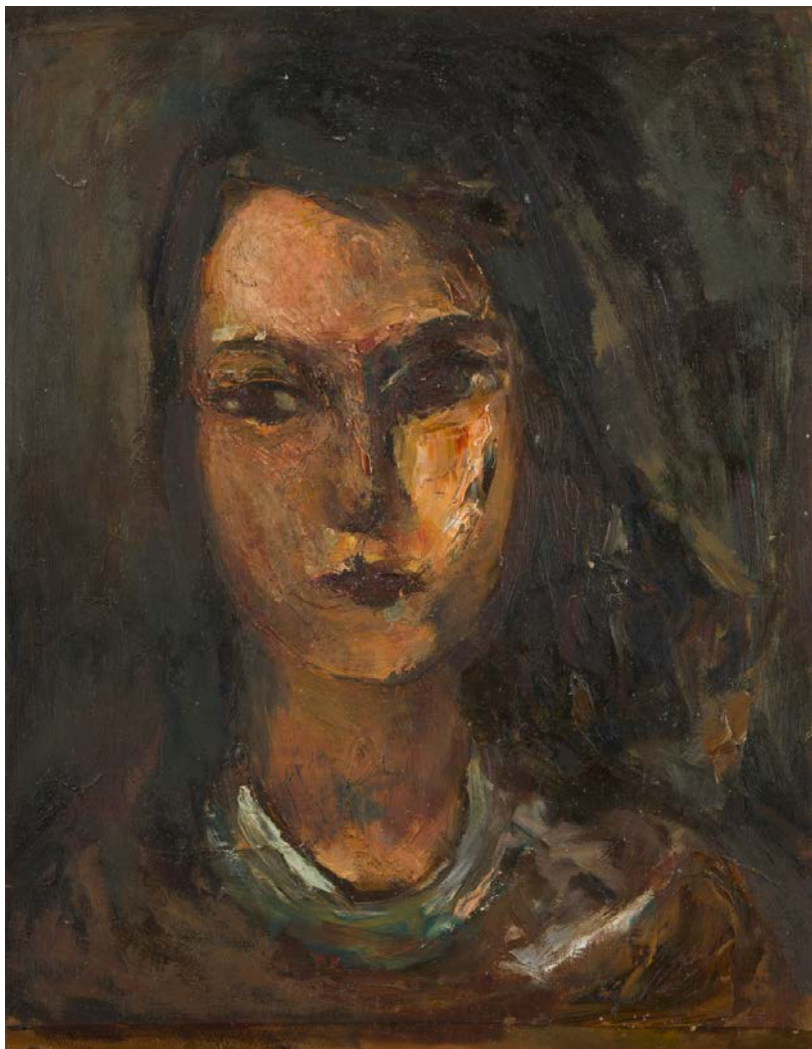
風景 1940 油彩・キャンバス



春 1932 油彩・板



風景 1939頃 油彩・キャンバス



フサ像 1931-32 油彩・板



卓上静物（花） 油彩・板



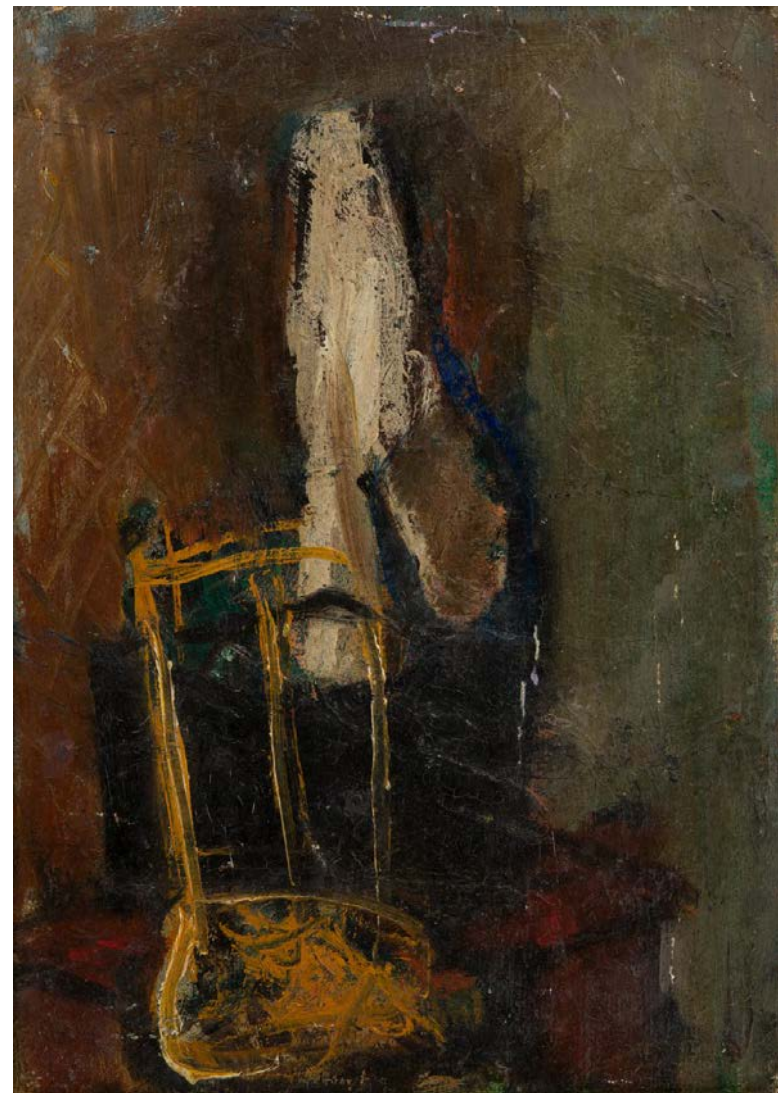
フサ像 1931 油彩・紙



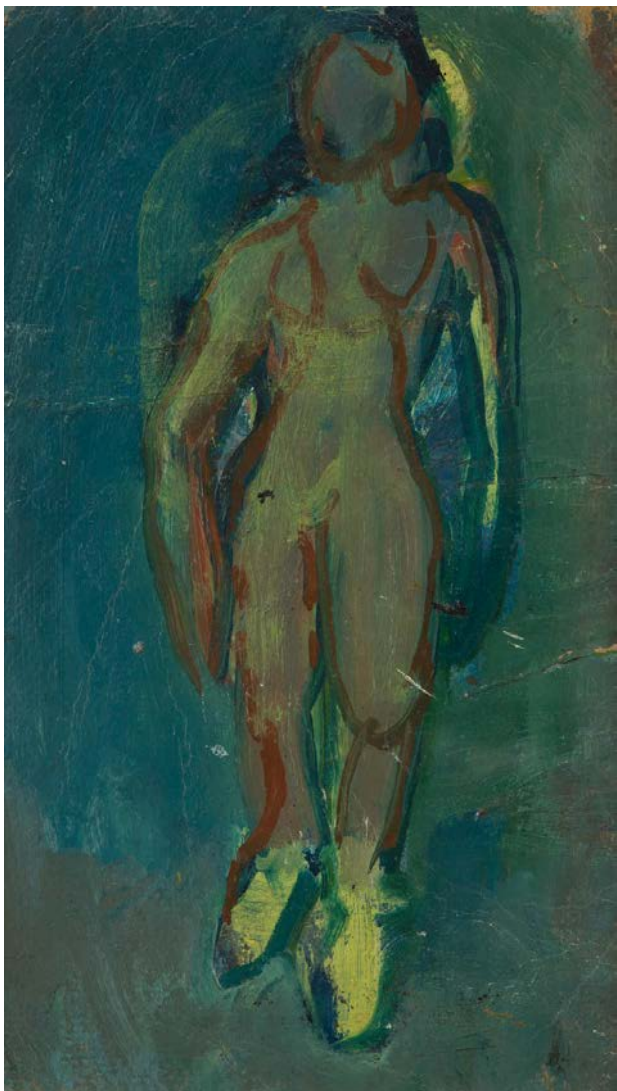
三人の裸婦 1934-35 鉛筆、チョーク・紙



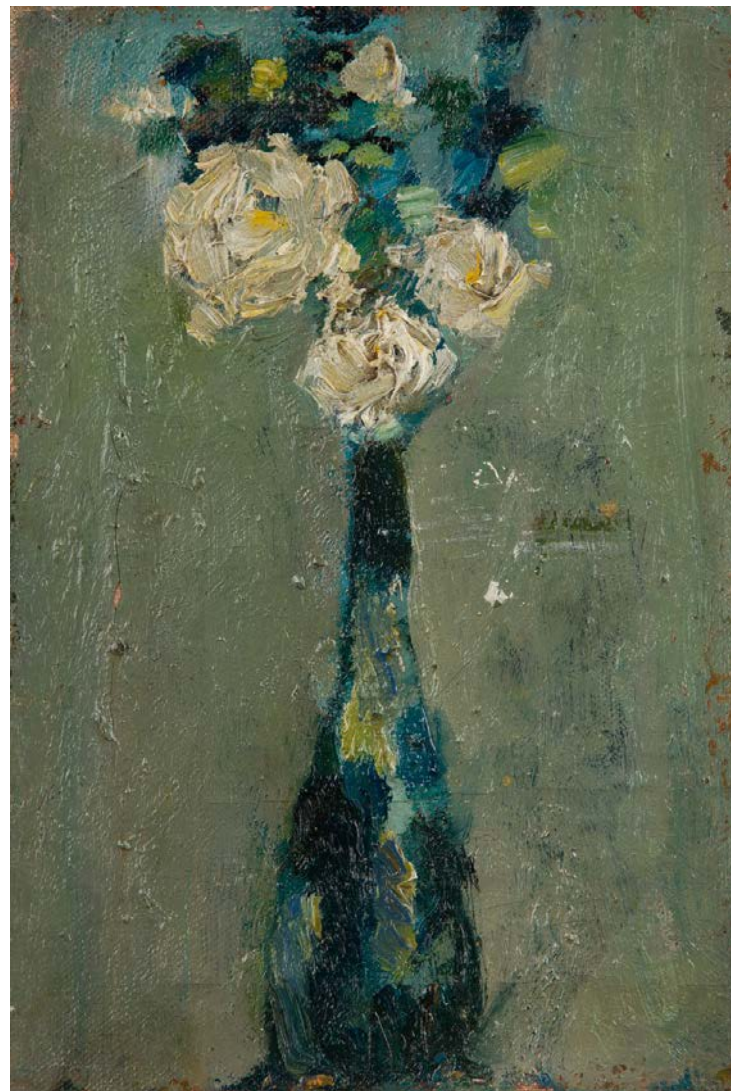
コック 1933 水彩・紙



画室の一隅 1931-32 油彩・ボール紙



踊子 1931-33 油彩・ボード



薔薇 1947 油彩・キャンバス



フサ像 1931 油彩・キャンバス



自画像 1947 デッサン・紙



幼児像 デッサン・紙



牛 油彩・キャンバス



幼児像 デッサン・紙



久仁子像 鉛筆、ペン・紙